

に努めた。

(7) 陶芸館ギャラリー企画展

ア. 平成28年度ゲスト・アーティスト3人展

＜開催期間＞平成29年4月1日（土）～4月23日（日）

イ. 武村和紀展

＜開催期間＞平成29年4月29日（土）～6月11日（日）

ウ. 「つちっこ！なるほどやきものコーナー」（やきものの素材などを触って体験する展示）

＜開催期間＞平成29年6月20日（日）～7月9日（日）

エ. 「子どもたちの土の造形一本物との出会いから展」

＜開催期間＞平成29年7月15日（土）～8月27日（日）

オ. 「陶芸館・新収蔵の逸品展」

＜開催期間＞平成29年9月2日（土）～12月17日（日）

絵画や彫刻など幅広い分野で国際的な評価と人気を得ている作家・奈良美智が、陶芸の森で滞在制作した「少女習作」。動物をテーマにした制作で世界的な知名度を誇るスウェーデンのリサ・ラーソンが、アメリカで制作した作品。また、近江ゆかりの古陶磁では、花入として愛好された古信楽の「蹲」、幕末の名窯・湖東焼の名品など。平成27・29年度の収蔵作品から、選りすぐりの逸品13点を展示紹介した。

(8) 博物館実習

＜期 間＞8月22日（火）～8月25日（金）（実習生：4人）

(9) 子ども事業と連動した陶芸館入館もう一回券「つちっこプログラム 陶芸館に行こう！」の回収

＜回収期間＞4月1日（土）～3月31日（土）（回収数：67枚、随行者数86人、計153人が入館）

2. 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）

やきものの産地である信楽でレジデンス事業を行っているメリットを最大限に、そして双方向に活かし、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めた。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ

計 48人（延べ50回）

内訳（延べ）

日本在住－22人、アメリカ－6人、カナダ－3人、シンガポール－2人、台湾－2人、フランス－2人、オランダ－2人、ジャマイカ－1人、タイ－1人、アルゼンチン－1人、スウェーデン－1人、ノルウェー－1人、ベルギー－2人、スイス－1人、香港1人、フィンランド1人、グアテマラ1人

（うち）文化庁補助事業での招へい者－5人

（うち）フィンランド文化センターを介した受入れプログラムでの招へい者－1人

ファビアンヌ・ウィゾフス（ベルギー 4/1-4/14）、村田彩（日本 4/1-5/31）、上田勇児（日本 4/1-4/23、8/1-9/30）、ジェシカ・ストラー（アメリカ 4/1-4/30）、ギャレット・マスターソン（アメリカ 4/1-5/16）、マリー＝フランス・ラブロッセ（カナダ 4/1-5/31）、谷澤紗和子（日本 4/20-6/10）、章 嘉和（シンガポール 5/25-6/25）、落合勉（日本 5/14-6/13）、鈴木麻起子（日本 4/27-6/30）、玄尚哲（日本 4/1-6/30）、張蕙敏〔テオ・フェイミン〕（シンガポール 4/12-7/8）、マルガリータ・デップ（スイス 4/2-7/9）、尾形アツシ（日本 5/16-7/13）、井掛紗百合（日本 4/1-7/31）、ジェシカ・スミス（アメリカ 7/1-7/31）、橋本知成（日本 4/1-8/6、1/21-3/31）、ウィム・シャーマー（オランダ 6/15-8/15）、ジャグ・メータ（ジャマイカ 6/13-8/27）、シュウ・リン（カナダ 7/1-8/31）、ピキッタ・クリステン（デンマーク 4/2-8/30）、クリサヤ・ルエンアナンタクル（タイ 6/14-9/6）、アンドレス・パシノビッチ（アルゼンチン 9/1-9/30）、谷口明子（日本 7/1-12/19）福岡佑梨（日本 8/17-11/28）、ソフィー・スヴェンソン（スウェーデン 9/1-12/17）、アンヤ・ボルゲルスド（ノルウェー 9/1-

10/29)、クリスティーナ・リュウ(アメリカ 9/22-11/30)、村山まりあ(日本 10/1-12/25)、マティアス・リーマタイネン(フィンランド、フィンランドセンターを介した受入プログラム対象者、10/11-11/23)、ヨリス・リンク(オランダ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、10/14-11/19)、セルジュ・ドス・サントス(フランス 10/25-11/29)、石山哲也(日本 11/1-1/24)、リン・ロンチェン(台湾、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、11/1-12/27)、チェン・シャオイー(台湾、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、11/1-12/27)、奈良美智(日本 11/15-1/14)、キャサリン・キング(アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、11/21-12/20)、清水真由美(日本、文化庁補助事業招へい者、12/1-2/28)、田中里奈(日本 12/9-3/31)、田上真也(日本 1/4-3/31)、工藤玲那(日本 1/7-3/31)、ウォン・チンボン・ケヴィス(香港 1/11-3/31)、キング・フンデックピンク(フランス 1/10-3/9)、久保木要(日本 1/20-3/31)、矢部俊一(日本 1/22-3/14)、キム・ジュンヒ(カナダ 2/1-3/31)、エステファニア・ヴァルス・ウルキホ(グアテマラ2/1-2/28)、イアン・ウィチョレク(アメリカ、3/1-3/31)

(2) ゲスト・アーティストの招聘

計 10人

うち日本在住作家—4人

海外作家—6人 インドネシア—1人、フランス—1人、インド—1人、イタリア—1人、アルゼンチン—1人、ドイツ—1人

うち文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」での招へい者—5人

・今野 朋子

居住地：インドネシア

滞在期間：(前年度から継続) 平成29年4月1日～平成29年4月30日

平成29年6月11日～平成29年7月23日

平成29年9月14日～平成29年12月7日

滞在日数：158日

概略：磁土と顔料入りの色磁土を練りこんだ物を手びねりで成型し、植物のように見える形態を作り上げた。今回の滞在では大型作品を行い、直径1m程の半球の石膏型の中で作品を展開させた。焼成はH29年秋、5,2m³ガス窯にておこなった。

・原 菜央(文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」招へい作家)

居住地：日本 京都府

滞在期間：平成29年5月20日～平成29年8月31日(継続中)

平成29年12月12日～平成30年3月31日

滞在日数：104日

概略：磁土での大型作品の制作に挑戦している。土台となる部分にはブレンド土を使用し、上部分を磁土で制作した。素焼きの後上絵付を行い、焼成予定。

作品展示：「原菜央」展 創作研修館ギャラリー

平成29年5月21日～平成29年6月30日

・アシュウィニ・バート(文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」招へい作家)

居住地：インド アメリカ在住

滞在期間：平成29年7月2日～平成29年8月29日

滞在日数：59日

概略：来日して見た、灯籠をモチーフとして、2m超の作品を制作した。表面処理はしがらき火まつりに参加することでインスピレーションを得て、金色釉で仕上げた。

作品展示：「Ashwini Bhat」展 創作研修館ギャラリー

平成29年8月29日

・町田 桂子

居 住 地：日本 フランス在住

滞在期間：平成29年8月1日～平成29年8月13日（継続中）

滞在日数：13日

概 略：町内作家が制作した皿の生地に絵付けを施した。また、前回滞在した際に制作した作品の仕上げを行った。

作品展示：「町田桂子」展 創作研修館ギャラリー

平成29年8月13日～

・安藤 郁子（文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」招へい作家）

居 住 地：日本 秋田県

滞在期間：平成29年8月22日～平成29年9月25日

平成30年1月6日～平成30年3月4日

滞在日数：93日

概 略：信楽の原土から粘土を生成し、器型のオブジェの制作を行った。焼成は薪窯で行い、冷却還元での炭化焼成を試みた。

・田中 哲也（文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」招へい作家）

居 住 地：日本 滋賀県

滞在期間：平成29年8月1日～平成30年3月31日

滞在日数：56日

概 略：陶芸の森ブレンド土を使用し、大型作品のパーツの制作を行った。今後はパーツの制作を継続するとともに焼成を行う予定。

・アントネラ・チマッティ

居 住 地：イタリア

滞在期間：平成29年9月6日～平成29年10月30日

滞在日数：55日

概 略：磁器や信楽透土の泥漿を使用して、レースのような構造に仕立てた皿や蝶の羽をモチーフとした平面作品を制作した。制作した作品は電気窯で焼成を行い、FUJIKI、また創作研修館ギャラリーにて展示、さらに管理棟入口への展示。

・ビルマ・ヴィラヴァーデ

居 住 地：アルゼンチン

滞在期間：平成29年10月25日～平成29年12月28日

滞在日数：65日

概 略：野外展示用に人体をモチーフとした大型作品の制作を行った。また、寄贈用に衛生陶器を組み合わせた作品の制作も行った。

・新里 明士（文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」招へい作家）

居 住 地：日本、岐阜県

滞在期間：平成30年1月5日～平成30年3月31日

滞在日数：86日

概 略：普段は磁器の仕事をしているが、信楽の原土を使用した土ものの仕事にも取り組んでいる。60cmから80cmほどの壺型のオブジェ作品の制作を行った。

・アンチュ・シャーフェー

居住地：ドイツ

滞在期間：平成30年3月1日～平成30年3月31日

滞在日数：31日

概略：器のシルエットを模った陶器の形をプリントし、2.5次元的に陶芸を表現した。制作、焼成は平成30年度に継続予定。

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会の開催

・第1回オープン・スタジオ

アーティスト・イン・レジデンス企画展「武村和紀-Growing 響-」

＜開催日＞平成29年4月29日（土）

＜会場＞陶芸館ギャラリー、創作研修館

＜講師＞武村和紀（京都府／平成28年度ゲスト・アーティスト）

＜参加者＞28人

＜内容＞アーティスト・トーク、スタジオ見学

京都府在住の作家・武村和紀氏が、2016年5月から9月にかけて創作研修館にゲスト・アーティストとして滞在し制作した作品を紹介した。

武村和紀氏は“構造とフォルムの関係性”を主題に、手捻りで独自の造形を追究している作家である。その特性は〈Growing〉というタイトルが示すように、土が生き物のように成長してゆくイメージを、形象化した造形にあるといえる。とくに幾つものユニットが連なりフォルムとなる幾何学構造の作品は、彼の造形思考を象徴する取り組みである。

本展では、作品とその周囲の空間構成をテーマに据え、作品から伸びる影を用いたインスタレーション展示を試みた。

アーティスト・トークでは作品や今回の展示内容に至った背景や、創作研修館での滞在、また「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2016」により台南芸術大学（台湾）へ滞在した際のレジデンス経験について語られた。

トーク後は創作研修館に移動し、スタジオの見学を行った。

・第2回オープン・スタジオ（文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」対象事業）

「原菜央-自作について-」

＜開催日＞平成29年5月21日（土）

＜会場＞管理棟視聴覚室、創作研修館

＜講師＞原菜央（京都府／平成29年度ゲスト・アーティスト）

＜参加者＞13人

＜内容＞作品展示、アーティスト・トーク、スタジオ見学

5月よりゲスト・アーティストとして滞在制作を行う、京都府の作家・原菜央氏に自作についてのスライドレクチャーを行っていただいた。

原氏が作品を産み出す上で大事にしている事は「この文化を次の時代へ運ぶということである。陶に限る事ではなく、受け継がれる日本の伝統技巧、文化は古い物として認識される傾向がある。だからこそ教えていただいた日本の技術に現代的な良き日本を落とし込み今を生きる人に伝え、その文化を残し、次につなげ絶やさぬよう広めていくことが私の使命だと思っている」と語った。

トーク後は創作研修館ギャラリーにて展示した作品の鑑賞、またスタジオ見学を行った。

・第3回オープン・スタジオ（文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」対象事業）

＜開催日＞平成29年7月9日（日）

＜会 場＞創作研修館ギャラリー

＜講 師＞原菜央（日本／H29ゲスト・アーティスト）

アシュウィニ・バート（インド、アメリカ在住／H29ゲスト・アーティスト）

＜参加者＞10人

＜内 容＞スタジオ見学

滞在するゲスト・アーティスト、またスタジオ・アーティストの作業現場の見学を行った。

・第4回オープン・スタジオ（文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」対象事業）

トークショー「アメリカのレジデンスでの陶芸制作体験」

＜開催日＞：平成29年8月6日（日）

＜会 場＞：管理棟視聴覚室、創作研修館

＜講 師＞：アシュウィニ・バート（インド、アメリカ在住／H29ゲスト・アーティスト）

篠原 希（平成29年度文化庁補助事業による陶芸の森からアメリカのクラフト・スクールへの派遣作家）

＜参加者＞：30人

＜内 容＞アーティスト・トーク、スタジオ見学

トークショー「アメリカのレジデンスでの陶芸制作体験」を開催した。

インド出身の陶芸科で現在アメリカに制作の場をもっているアシュウィニ・バート氏ならびに、5月から約1か月アメリカのクラフト・スクールでレジデンスを経験した篠原希氏の二人にスライドレクチャーを行っていただいた。二人の作家からレジデンス先進国であるアメリカの、実際に滞在したレジデンス施設の情報を話していただいた。また、二人とも薪窯焼成を主な手法とする作家であることから、アメリカの薪窯事情なども話していただいた。また、トークショー後には創作研修館の見学を行った。

・第5回オープン・スタジオ「アントネラ・チマッティ&マティアス・リーマタイネン アーティスト・トーク」

＜開催日＞平成29年10月22日（日）

＜参加者＞16人

＜講 師＞アントネラ・チマッティ（イタリア／ゲスト・アーティスト）

マティアス・リーマタイネン（フィンランド／フィンランドセンターを介した受入プログラム対象者）

＜内 容＞イタリアを拠点に活動する作家のアントネラ・チマッティ並びにフィンランドで制作を行うマティアス・リーマタイネンに自作または自身を取り巻く美術環境についてレクチャーしていただき、2人のアーティストへの理解を深めるとともに、各作家の活動国における陶芸事情の情報共有をおこなった。

・第6回オープン・スタジオ「ビルマ・ヴィラヴァーデ、ヨリス・リンク アーティスト・トーク」

＜開催日＞平成29年11月18日（土）

＜参加者＞21人

＜講 師＞ビルマ・ヴィラヴァーデ（アルゼンチン／ゲスト・アーティスト）

ジョリス・リンク（文化庁補助事業交換プログラム招へい者）

＜内 容＞アルゼンチンを拠点とし、多くのレジデンス施設で滞在制作を行うビルマ・ヴィラヴァーデと、オランダEKWCで滞在またスタッフ経験のあるヨリス・リンクの2人に自身の作品

やレジデンス経験についてレクチャーしていただき、2人のアーティストへの理解を深めるとともに、レジデンス施設などの情報共有を行った。

・外館和子トークショー 「陶の造形史—最新の国際動向を中心に」

＜開催日＞平成29年11月30日(木)

＜会 場＞創作研修館視聴覚室

＜参加者＞23人

＜内 容＞韓国陶芸ビエンナーレなどの国際公募展で審査にあたった経験などをとおして「造形としての陶芸」のながれを語ってもらった。

・トークショー「キャサリン・キング、リン・ロンチェン、チェン・シャオイー アーティスト・トーク」

＜開催日＞平成29年12月16日(土)

＜参加者＞12人

＜講 師＞キャサリン・キング(アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

リン・ロンチェン(台湾、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

チェン・シャオイー(台湾、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

＜内 容＞アメリカで活動し、クラフト・スクールUSの関係者としても活動するキャサリン・キングと台南芸術大学を卒業し、現在は個人で活動しているリン・ロンチェン、チェン・シャオイーの3人に自身の制作や制作現場のレクチャーをしていただき、3人のアーティストへの理解を深めるとともに、レジデンス機関や制作現場の情報共有を行った。

・第7回オープン・スタジオ「新里明士—今までの制作とこれからの制作—」

＜開催日＞1月27日(土)14時～16時

＜参加者＞30人

＜講 師＞新里明士(ゲスト・アーティスト、文化庁補助事業招へい者)

＜内 容＞岐阜県を拠点とし、近年はハーバード大学やイタリアのカルロ・ザウリ美術館など、海外での滞在制作にも積極的に参加している新里明士に、これまでの作品やレジデンス経験をレクチャーしていただいた。トークショー後には新里氏が現在制作しているスタジオにて、ワークショップを行った。

・トークショー「田中哲也、清水真由美、安藤郁子、キング・フンデックピンク」

＜開催日＞2月25日(日)14時～16時

＜参加者＞36人

＜講 師＞田中哲也(日本/平成29年度ゲスト・アーティスト)

安藤郁子(日本/平成29年度ゲスト・アーティスト)

清水真由美(日本/平成29年度スタジオ・アーティスト)

キング・フンデックピンク(フランス/平成29年度スタジオ・アーティスト)

＜内 容＞それぞれ自作についてや、自身の制作環境、レジデンスなどの他国での制作体験などお話しいただき、そしてワークショップなどもしていただきました。トークショー後には信楽町内のギャラリーFUJIKI(陶芸の森地域連携拠点)に移動して、キング・フンデックピンク氏の展覧会の鑑賞を行いました。

(4) 創作研修館等のギャラリーを基点とした情報発信、ワークショップ、講演会の開催

◎レジデンスでの滞在作家の町内での活動

- ・町内にある長石山へ見学に行き、長石や粘土の採取をおこなった。また作家数名を連れて町内の陶器メーカーの工房を見学した。(2回実施)
- ・町内のイベント「しがらき火まつり」に参加し、たいまつを愛宕山の陶器神社へ奉納した。

- ・地域連携拠点 FUJIKI にて、滞在作家による作品展示を開催した。
- 「Frontier フロンティアー世界同時開催：陶芸からの発信」 (再掲)
 - <開催日>平成29年8月1日(火)～平成29年8月20日(日)
 - <会場>FUJIKI
 - <出品者>ビキッタ・クリステンス(デンマーク/平成29年度スタジオ・アーティスト)
 - 玄尚哲(日本/平成29年度スタジオ・アーティスト)
 - <参加者>15名
 - <内容>オープニングセレモニー/アーティスト・トーク
- 「TRANSFORM」 (再掲)
 - <開催日>平成29年8月25日(金)～平成29年8月31日(木)
 - <会場>FUJIKI
 - <出品者>クリサヤ・ルエンアナンタクル(タイ/平成29年度スタジオ・アーティスト)
 - <来場者>93名(7日間)
 - <内容>オープニングセレモニー/アーティスト・トーク

◎スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストによる展覧会活動等

- ・奈良美智、大谷滋、桑田卓郎、上田勇児「村上隆のスーパーフラット現代陶芸考」
 - <開催日>平成29年3月11日～5月28日
 - <開催場所>十和田市現代美術館(青森県)
- ・奈良美智、大谷滋、桑田卓郎、上田勇児「陶芸・彫刻を考えるきっかけ：信楽に撒かれた種」展
 - <開催日>平成29年4月4日～4月28日
 - <開催場所>カイカイキキギャラリー(東京)
- ・谷澤紗和子「東アジア文化都市2017京都アジア回廊現代美術展」
 - <開催日>平成29年8月19日～10月15日
 - <開催場所>二条城、京都文化センター(京都)
- ・マルガリータ・デップ「MARGARETA DAEPP」展
 - <開催日>平成29年6月20日～7月2日
 - <開催場所>ギャラリー揺(京都)
- ・井掛沙百合「井掛沙百合」展
 - <開催日>平成29年7月2日～7月9日
 - <開催場所>目黒陶芸館(三重県)
- ・尾形アツシ「尾形アツシ陶展」
 - <開催日>平成29年7月22日～7月31日
 - <開催場所>sumica 栖(神奈川県)
- ・ビキッタ・クリステンス、玄尚哲「Frontier」(再掲)
 - <開催日>平成29年8月1日～8月20日
 - <開催場所>FUJIKI(信楽町)
- ・クリサヤ・ルエンアナンタクル「TRANSFORM」(再掲)
 - <開催日>平成29年8月25日～8月31日
 - <開催場所>FUJIKI(信楽町)
- ・アシュウィニ・バート「Ashwini Bhat」(文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」対象事業)
 - <開催日>平成29年7月29日
 - <開催場所>陶芸の森 創作研修館ギャラリー
- ・アントネラ・チマッティ、アンヤ・ボルゲルスルド 「Anja Borgersrud 土 Antonella Cimatti」

(再掲)

- ・<開催日>平成29年10月21日-10月29日
<開催場所>FUJIKI (信楽町)
- ・矢部俊一「The Light Above, The Light Below」
<開催日>平成29年11月9日-11月18日
<開催場所>酉福ギャラリー (東京都)
- ・田中里奈「時空散歩-見えないはずの光景を」
<開催場所>岡崎シビコ (愛知県)
<開催日>平成29年11月18日-12月3日
- ・クリスティーナ・リュウ展
<開催日>平成29年11月21日-11月26日
<開催場所>創作研修館ギャラリー
- ・久保木 要「THE NOU」展
<開催日>平成29年11月21日-11月26日
<開催場所>KUNST ARZT (京都府)
- ・福岡佑梨「とをひらう」
<開催日>平成29年12月1日-12月22日
<開催場所>GALLERY FUKUZUMI (大阪府)
- ・ソフィー・スヴェンソン「SORT」(再掲)
<開催日>平成29年12月9日-12月15日
<開催場所>FUJIKI (信楽町)
- ・新里明士展
<開催日>平成29年12月19日-12月25日
<開催場所>柿傳ギャラリー (東京都)
- ・リン・ロンチェ、チェン・シャオイー 展
<開催日>平成29年12月21日-12月26日
<開催場所>創作研修館ギャラリー
- ・石山哲也「アイコン」
<開催日>平成30年1月12日-1月27日
<開催場所>艸居 (京都府)
- ・久保木要「京都府新鋭選抜展」
<開催日>平成30年1月20日-2月4日
<開催場所>京都文化博物館 (京都府)
- ・原菜央「原菜央 陶展」
<開催日>平成30年2月1日-2月28日
<開催場所>JARFO 京・京都文化博物館 (京都府)
- ・奈良美智「Drawings:1988-2018 Last 30 Years」
<開催日>平成30年2月9日-3月9日
<開催場所>カイカイキキ ギャラリー (東京都)
- ・工藤玲那「floater」
<開催日>平成30年2月12日-2月18日
<開催場所>ポタコーヒー2階 (山形県)
- ・キング・フンデックピンク「THANK YOU FOR THE CLAY!」(再掲)
<開催日>平成30年2月25日-3月4日

<開催場所>FUJIKI (信楽町)

◎その他過去に滞在したスタジオ・アーティスト等の活躍について

日本伝統工芸会近畿支部展への入選、国際陶磁器展美濃への入選等

(5)国内外のレジデンス機関等との連携

ア. 海外の機関との連携

文化庁からの補助金を得て、海外の3レジデンス機関、クラフト・スクールUS (アメリカ)、台湾国立台南芸術大学 (台湾 ROC)、ヨーロピアン・セラミック・ワークセンター (オランダ) と提携し先方から4人の作家を招へいし、当方からも4人の作家を派遣しレジデンス機関との間の人的交流を活性化した。

・クラフト・スクールUS (アメリカ)

受け入れ者：キャサリン・キング (アメリカ)

受け入れ期間：平成29年11月21日～12月20日

派遣者：篠原希 (甲賀市信楽町)

派遣期間：平成29年5月27日～6月28日

・台湾国立台南芸術大学 (台湾 ROC)

受け入れ者：チェン・シャオイー (Chen Shao-Yi) (台湾 ROC)

受け入れ期間：平成29年10月30日～12月28日

受け入れ者：リン・ロンチェン (Lin Lung-Chieh) (台湾 ROC)

受け入れ期間：平成29年10月30日～12月28日

派遣者：迫 能弘 (甲賀市信楽町)

派遣期間：平成29年11月11日～12月11日

派遣者：高橋由紀子 (甲賀市信楽町)

派遣期間：平成29年11月24日～12月25日

・ヨーロピアン・セラミック・ワークセンター (EKWC, オランダ)

受け入れ者：ヨリス・リンク (Joris Link)

受け入れ期間：平成29年10月15日～11月19日

派遣者：山田浩之 (甲賀市信楽町)

派遣期間：平成30年2月1日～3月25日

また、平成28年度事業として、田中哲也 (滋賀県野洲市)、大谷滋 (滋賀県大津市) の2人を平成29年12月～1月にEKWC (オランダ) に派遣した。

イ. 国内の機関との連携

アーティスト・イン・レジデンス研究会及びトークショーの概要

国内の4つのレジデンス機関と「ノウハウや情報を共有するため」、「レジデンスの運営の諸課題」をテーマに研究会を3回にわたり開催した。また、併せて4つの団体の運営するAIR事業に関係した作家による、レジデンス経験についてのトークショーをあわせて開催した。モデレーターには、AIR事

業の研究者である菅野幸子氏（AIR Lab アーツ・プランナー／リサーチャー）と、日沼禎子氏（女子美術大学准教授）に依頼した。（文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2017」対象事業）

○第1回アーティスト・イン・レジデンス研究会 in 滋賀県立陶芸の森

- ・開催日時：平成29年9月9日（土）13時～
- ・開催場所：滋賀県立陶芸の森 創作研修館視聴覚室
- ・出席者：計18人
- ・参加機関：益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子、京都芸術センター、公益財団法人滋賀県陶芸の森、奈良県地域振興部 国際芸術家村整備推進室、女子美術大学
- ・討議内容：「アンケート調査から見える AIR 事業の課題について」事前に J-AIR 掲載の各団体に運営に関するアンケート調査をとっており、この調査の結果について杉山から報告し、モデレーターである菅野幸子、日沼禎子両氏のコメント後、参加機関の現場が抱える課題について意見交換を行った。

●第1回アーティスト・イン・レジデンストークショー in 滋賀県立陶芸の森

- ・開催日時：平成29年9月10日（日）13時～
- ・開催場所：滋賀県立陶芸の森 創作研修館視聴覚室
- ・参加者：30人
- ・スピーカー：「フィラデルフィア芸術大学及びV&A 博物館でのレジデンスプログラム」
榎本佳子（陶芸家、元陶芸の森スタジオ・アーティスト）
「レジデンスが自分に与えた影響」
田中良和（陶芸家、元瀬戸新世紀工芸館レジデンス受入担当）
「挑戦する意欲と、守るこころ」
濱田友緒（陶芸家、濱田庄司記念館館長）

○第2回アーティスト・イン・レジデンス研究会 in 益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子

- ・開催日時：平成29年11月11日（土）
- ・開催場所：益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子
- ・出席者：14人
- ・参加機関：益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子、京都芸術センター、公益財団法人滋賀県陶芸の森、瀬戸市新世紀工芸館、女子美術大学
- ・討議内容：「AIR の課題と共有～特に「陶芸」分野において」

- ①現在の課題の共有
- ②産地における AIR の役割
- ③AIR の事業としてのサステナビリティを考える～経済、地域活性、評価、観光、デザインなどの観点から

上記3つのテーマに沿って、補助金について、事業の実施時期、広報活動のターゲットなど各館の発表をもとに意見交換した。

今後に向けて、陶芸の技術的なこと、受け入れなどの運営に関することなどをまとめた「レジデンス運営のマニュアル」の制作、共有を目指すという一定の方向性が生まれた。また、この研究会に参画している館同士での作家の派遣、交流の活性化を図るため、1～2日でワークショップと講演会をセットにした事業ができないか、との提案があった。

●第2回アーティスト・イン・レジデンストークショー 信楽×益子

- ・開催日時：平成29年11月12日（日）13時～16時
- ・開催場所：濱田庄司記念 益子参考館

- ・参加者 : 30人
- ・スピーカー:「自身の制作とヨーロッパ・セラミック・ワークセンターについて」
ヨリス・リンク (オランダ、陶芸の森文化庁補助事業招へい者)
「自身の制作とセント・アイヴィス、リーチ工房での経験について」
ジョン・ベディング(イギリス、益子国際工芸交流館招へい作家)
- ・座談会「レジデンスについて」
(濱田友緒 (陶芸家、濱田庄司記念館館長)、杉山道夫 (陶芸の森創作研修課長)、ヨリス・リンク、ジョン・ベディング) + 質疑応答

○第3回アーティスト・イン・レジデンス研究会 in 瀬戸市新世紀工芸館

- ・開催日時:平成30年1月20日(土)
- ・開催場所:瀬戸市新世紀工芸館
- ・出席者 : 14人
- ・参加機関:益子陶芸美術館/陶芸メッセ・益子、京都芸術センター、公益財団法人滋賀県陶芸の森、瀬戸市新世紀工芸館、女子美術大学
- ・討議内容:「多彩な技術と産地におけるAIRの役割、可能性」として、伝統的工芸品の産地にあるレジデンスとして、デザイン等との関連付けができないかどうか。
「次年度のネットワーク研究会継続も視野にいれながら各館が連携して行う、具体的なネットワーク事業の提案について」討議し、場所を変えて今年度同様に研究会を開催する方向でまとまった。またそのうちの1回は、東京で開催し、「地域で活動しているレジデンスの成果を都市部で可視化すること」また、「当研究会に参画していない団体にも参画を促し議論を行うこと」、以上2点を通じ、レジデンスのマニュアル作成等に反映させたい。

●第3回アーティスト・イン・レジデンストークショー in 瀬戸市新世紀工芸館

- ・開催日時:平成30年1月21日(日) 13時～
- ・開催場所:瀬戸市新世紀工芸館
- ・参加者 : 40人
- ・スピーカー:「自分自身のレジデンス経験と作品について—韓国、アメリカ、東京、京都」
キム・ジェウォン (現代芸術家、韓国、京都芸術センター招へい作家)
「地域から見たレジデンス」岩見晋介 (陶芸家、益子在住)
「海外での制作経験」竹内真吾 (陶芸家、瀬戸市在住)

3. 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行った。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげるよう努めた。

(1)「本物と出会う—総合的学習プログラム事業」宝物事業と連携

- ・連携授業 参加者 97件 5,661人
 - ・来園プログラム 参加者 14校 994人
 - ・ねんどと遊ぶ 参加者 274人 (5回開催 平均54人)
- 世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会を組織」
参加者 115回 4,100人
協力:滋賀次世代文化芸術センター 合計 85人

(2)夏季研修会「センス・オブ・ワンダー美術館からの発信きっかけは本物との出会い！ 子どもたちの心がひらく…学びの現場から！」

＜開催日＞8月7日（月） MIHO MUSEUM（48人）、10日（木）陶芸の森（33人）
（参加者のべ81人）

(3)連携授業および世界にひとつの宝物づくり事業の成果展開催

・「つちっこ！なるほどやきものコーナー」（やきものの素材などを触って体験する展示）（再掲）

＜開催日＞6月20日（日）～7月9日（日） 陶芸館ギャラリー

・「子どもたちの造形ー本物との出会いから ミシガン大学×小原小学校、甲南第三小学校の子どもたち～コミュニケーションを楽しみながら」展示作品約44点。（甲賀市立小原小学校と甲南第三小学校とミシガン大学の合同制作作品）（再掲）

＜開催日＞7月15日（土）～8月27日（日） 陶芸館ギャラリー

第3 産業の振興に関する事業

陶芸の森では、信楽焼の伝統技術を将来に継承するための人材育成事業、およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示により信楽陶器産業の振興に努めた。

1. 信楽産業展示館の活用

(1)陶器まつりでの産業展示館のブース展示

＜展示期間＞平成29年10月7日（土）～11月5日（日）

＜展示品＞手洗い鉢（デザイン：藤岡 貢）

平成28年度に試作した加飾デザイン作品の展示をおこなった。

2. 人材育成事業

(1)信楽高等学校への支援事業

実施回数：5回 受講者数：196人

ア デザイン系列絵付け実習

＜実施日＞平成29年10月18日（水）

＜参加者＞25人（3年生）

＜講師＞織田阿奴

3年生デザイン系列を対象とした、作家に指導による陶椅子への絵付け実習をおこなった。

イ 登り窯で焼成する作品の制作

＜実施日＞平成29年10月24日（火）

＜参加者＞26人＋社会人聴講生6人（2年生セラミック系列が対象）

＜講師＞藤原純、徳地祐二、田中哲也

11月に焼成する登り窯での作品制作を、3人の講師がそれぞれの設定したテーマにそって制作をおこなった。

ウ 野焼き体験実習1（1年生 産業社会と人間 校外学習）

＜実施日＞平成29年11月17日（金）

＜参加者＞57人（1年生）

生徒が「産業社会と人間」で学んできた陶芸史の内容を実体験することで、陶芸に対する理解を深めた。作陶や造形、焼成作業、陶芸の森施設見学を通して、生徒の2年次系列選択の選考材料とした。

エ 茶道と作陶の体験実習

<実施日>平成29年10月20日（金）

<参加者>53人（1年生）

<講師>奥田英山（茶道）、神崎秀策（茶道）、細川政己（作陶）

1年生を対象に陶芸に関する知識と関心を高めるために、奥田英山先生による茶道、陶芸に関する講義をしていただいた。その後、グループに分かれて茶道体験、作陶体験をおこなった。

オ 登り窯焼成実習（2年生セラミック系列 セラミック実習A特別授業）

<実施日>平成29年11月24日（金）

<参加者>24人+社会人聴講生5人

伝統的で大規模な焼成を体験することで、陶芸作品に対する理解と作陶活動に対する意欲の向上を図った。

(2) 「信楽(焼)の持っている魅力の再発見」の開催について

地域の業界の若手後継者等を主な対象として、時代のトレンドをいく「ライフスタイル」を考えるトークショーを3回にわたって開催した。2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、日本の伝統的な文化や価値観を世界に発信する大きなチャンスであるが、そのために信楽でも「信楽(焼)の持っている魅力の再発見」することが大切になってくる。「産業活性化」や「デザイン開発」、「コミュニケーション・デザイン」等の最先端で活動するプロデューサーを招き、地域の若手後継者等と交流してもらい、トークショーをおこなうことで、地域産業の将来を担う人材を育成するきっかけとした。

開催回数：3回 参加者数：合計170人

○第1回「丸若裕俊による、信楽の持つ魅力の再発見」

- ・講師：丸若裕俊（株式会社丸若屋代表）
- ・開催日：（平成29年11月2日（木）（陶器製造メーカー、卸業、茶業の視察）
3日（金・祝）（午前中視察を継続、午後トークショー）
- ・開催場所：創作研修館視聴覚室
- ・参加者：45人

伝統工芸から最先端の工業技術まで今ある姿に時代の空気を取り入れて再構「商品開発」「映像配信」「ものづくり・ことづくり」など、手段を問わず、視点を変えた新たな提案を得意とする新進のプロデューサー丸若裕俊氏が、「モノづくり」、「地域活性化」等について、自身が行ってきた「伝統工芸産地での新商品開発」や「お茶の振興についての提案、実践事例」などについてトークショーをおこなうとともに、陶器業界や茶業の若手後継者等と交流を図ることで、地域産業の将来を担う人材を育成するきっかけとした。

○第2回「民俗学者、井戸理恵子による、信楽の持つ魅力の再発見～地勢・地名・民俗で訓み解く地域再興～しがらき談義 Vol.1」

- ・講師：井戸理恵子（ゆきすきのくに合同会社代表、民俗情報工学研究家）
- ・開催日時：平成29年12月9日（土）14:00～、10日（日）13:00～
- ・開催場所：信楽産業展示館ホール
- ・参加者：110人（2日間）

民俗情報工学の視点から、信楽の地名から歴史を読み解き、地域に残る伝統儀礼、風習、信仰、地域特有の祭り、習慣、伝統技術などについて民俗学的な視点から、その意味と本質を読み解き、地域活性化につながるような提案を含めて行うことで信楽の魅力を再発見した。

○第3回「PRプランナー藤本貴久と考える信楽(焼)の持っている魅力の再発見—信楽PR戦略」

- ・講師：藤本貴久（TMオフィスPRプランナー）
- ・開催日時：平成30年1月28日（日）14:00～
- ・開催場所：創作研修館視聴覚室

・参加者：15人

「PR（パブリック・リレーションズ）を生かした地域の活性化とブランド戦略」的な視点から「信楽の魅力をもっとPRする」ことの事例提案をおこなった。地域の持っているポテンシャルを、PRによりブランド化させ、ブームをつくりださせる可能性があることを提示した。

3. デザイン活性化事業

(1) 既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽透土を使用した照明器具を取り上げ、デザインをスタジオ・アーティストとして滞在した照明デザイナーの落合勉氏に依頼し、新しい感覚の試作品が出来上がった。来秋（平成30年）の産業展示館での展示を行い、業界へのデザイン提案の一環とする。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色ある商品販売を行った。また、併せてインターネットを活用したオンラインショップでの商品提供や販売促進に努めた。

2. その他

(1) 自動販売機の設置

入園者が自由に憩い楽しめるように公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供した。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供した。